

研究だより

平成28年6月21日 第1号
富士見市立富士見特別支援学校
研究研修部

学校研究全体研修をおこないました！

6月7日(火)、学校研究全体研修をおこないました。群馬大学教育学部 教授の霜田浩信先生を講師に招き、「学校研究へのコメント」という内容で講義をしていただきました。「授業のシンプルデザイン」を考える上でとても貴重なお話をきくことができました。

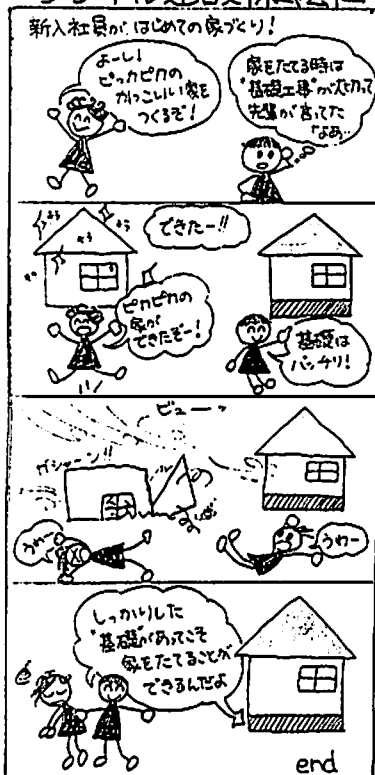
学校研究に取り組むにあたり、たくさん
のエッセンスをもらいました

「シンプルデザインは授業の基盤である！」

- ・整った授業は、「シンプルデザイン」という基盤の上に「個を捉えたうえでの指示の明確化」がのるという構造イメージである
- ・シンプルデザインの構造は合理的配慮の環境整備(基礎的環境整備)の構造と似ている
- ・「シンプルデザイン」をとり入れただけで、わかる授業が作れるわけではない



シンプル建設株式会社



「シンプルデザインを入れるだけで授業が作れるわけではない。
しかし! シンプルデザインなくして授業は成り立たない!!」

- ・障がい特性に実態差のある子どもたちだからこそ、授業という集団(個人)での活動をするために、授業の枠組みをしっかりと整える必要がある
- ・障がい特性がある子どもたちだからこそ、ユニバーサルの視点を活かした「シンプルデザイン」が有効である
- ・4つの視点は通常級の授業でも有効であるが、それ以上に特別支援の授業では有効的であり、必要不可欠なものである

「障がいの特性をみていくと、シンプルデザインの必要性がみえてくる」
・こういう障がい特性があるので、こういう視点を入れて授業の基礎環境をつくれば、参加することができた(しようとした・わかった)

研究部の話し合いで...

- ①「整った授業」とは
→「参加しやすい、参加できる、わかりやすい授業」というおさえですよ
- ②シンプルデザインは何にアプローチするのか?
→子どもの意欲・知識・技能・態度すべてじゃない?
- ③そもそも「参加しやすい、参加できる、わかりやすい授業」とは何か。それらの関係性は?
→やってみようと思う「参加しやすい」が最初の段階、そこから実際に参加し、やってみてわかるというようにステップアップしていく関係性だよ

みなさんはどう考えますか?



学校研究全体研修 感想（抜粋）

- ・今まで、プリント課題を出したとき何も言わず、終わったら次、終わったら次とやっていたので、これからはやるべき学習課題の内容、順番、量を提示してから進めたいと思います。
- ・概念化の難しさ、経験不足など、今教えている子どもたちのことを思い返し、確かにその通りだなと感じたとともに、まだまだ自分は子どもの立場に立って考えられていないと思いました。今回の研修を機に改めてシンプルデザインについて考え、授業に活かしていきたいと思います。
- ・関連付けができない理由として、経験不足があります。その経験をつける場として「学校」が一番の場と考えます。普通の授業を通して新しい経験や活動が行えるように子どもたちの興味関心があるもの、ありそうなものを題材にしていきたいです。また、ただパズルや型はめをするのではなく、教員側から名称を復唱するだけでも少し記憶にのこったら良いなと思います。課題でも「今日の目標」を明確にしてやる気につなげることをしたいです。
- ・シンプルデザインの必要性を考えるという観点から、知的障がい児の特性を丁寧に教えて頂き、とても勉強になる研修でした。特に印象に残ったのは、児童の注意をひくための小技として、前ふりをしてから本題の説明をすることや、間を置くことで逆に注意をひくなど、明日からの指導に活かせる内容ばかりだったのでとてもよかったです。教頭も謝辞で述べていましたが、活動のゴール点を詳しく教えて頂けた研修だったと実感しました。
- ・「参加しやすい」というのは児童生徒の興味関心を誘うような雰囲気教室に流れていること。「参加できる」（＝参加に対する期待と安心が保障されている）と思えるだけの見通しや環境が整えられている状態（授業）。そうして「わかりやすい」は実際に学習活動に参加する中で、児童生徒が個々の力を発揮して「わかる」という「手ごたえ」（喜び）を感じたり、味わったりすることができるだと思います。したがって「参加しやすい」（入口）、「参加できる」（安心感から活動参加）、「わかりやすい」（活動の手ごたえ）は、横並びの並立関係やイコールではないと思います。主観的な学びを生み出すステップ or 階層構造のように感じますが。（今は・・・です）「シンプルデザインがすべてではないが、シンプルデザインなくしては、授業は成立しない」という内容はその通りだと思いました。実態差のある児童生徒が個人だけでなく集団で学習活動に取り組むには授業の枠組みを整えたうえで、通常学級以上に実態把握にもとづいた授業づくりが求められると思います。
- ・「なぜシンプルデザインが必要か」「シンプルデザインは何にアプローチするのか」を大切に授業づくりをしようと改めて思いました。
- ・自分の意識もそうだが、子どもたちも変化してきたなあと感じていた時に講義を聞いてよかったです。もちろん霜田先生が「4つの視点だけでは不十分」と言っていたので、これ以外にも必要な要素はあるし、+αで取り入れていることもあるんだなあと感じました。
- ・霜田先生の講義を聞き、自分が思い描く授業をどのように展開していけばいいのか答えを得られたように感じました。明日から早速実行していくとともに、生徒の実態を捉え続け、授業を実態に合わせて変化させることを忘れずに頑張りたいと思います。

研究だより

平成28年7月20日 第2号
富士見市立富士見特別支援学校
研究研修部

授業づくりの話をはじめたら、何時間あっても足りないね！

今回の学校研究の研究主体組織は、各教科領域部会です。月に2回程度設定されている教科領域部会では、「シンプルデザインを取り入れた授業づくり」についての話し合いがおこなわれ、熱い意見交換が繰り広げられています。会議時間だけでは、話し合いが終わらず、別の日にも話す機会を設定したり、あいている時間で授業のビデオを見合っている部会もありました。この話し合いで出てきた芽がどんどん育ち、授業の中で大きな花を咲かせ突となる日は、そう遠くない気がします…各部会からはこんな声が聞こえてきました。



「1ヶ月ですいぶん変わったね！」

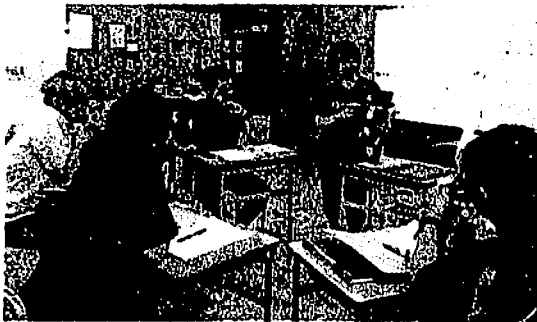


5月頃は、授業中、歩きときには走り回っていたり、他の子に絡んでいた子も、最初から最後まで席についてるね！
場・時間・展開を構造化したら、変わるんだね。



「かたづけは子どもに
やらせてみたら？」

片づけの仕方、場所をパターン化、
構造化すれば可能じゃない？
導入で準備、まとめで片づけって
いう展開にしてもいいかもね。
次の授業から取り入れてみよう！



「課題ボックスを使用することで、見通しが持てているね」

生徒が学習課題を読み上げ、自分で学習用具を準備しているね。
主体性を引き出すことができていると思う。あとは、ボックスの位置
を考えたら？

授業の山場を開始から15～20分に持ってきたよ

生徒が授業に入り込んできて、集中のつづく時間を考えるとこのくらいに山場を持ってくるといい気がする。みなさんはどうですか？

「授業づくりの基本的枠組みを意識したら、授業が作りやすくなった！」

授業を考えていくとき、どこから手をつけていけばいいのかよくわからなかったけど、見えてきた。

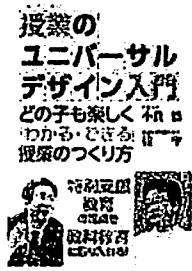
こんな感じで、授業の内容、組み立て方、子供たちの様子など、たくさんの声が聞こえてきました。また、日頃感じている困り感も共有することができ、教員間で話す機会が多くなったのは、とてもよいことです。学校研究を通して、授業力の向上はもちろん、チームワークの向上も期待できそうです…
by研究部

ちょっと時間のある夏季休業中に手に取るべき、
おススメの本を紹介します⇒裏面



シンプル建設株式会社





「授業のユニバーサルデザイン入門」 東洋館出版社

授業のユニバーサルデザインの原点をみつめ、理念、手法、具体的な実践例をわかりやすく紹介。授業ライブを元にユニバーサルデザイン化のための14の視点を解説。明星大学教授・小賀悟と筑波大学附属小学校・桂聖の対談「教科教育と特別支援教育をつなげる」を収録。

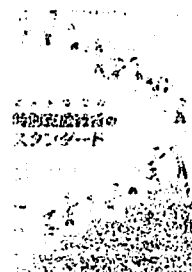


「授業のユニバーサルデザイン」Vol.1~8 東洋館出版社

授業のユニバーサルデザイン研究会 桂聖 石塚謙二 編著 Vol1~8まで発行

クラスの子ども全員が笑顔で「わかった！」と声を上げる授業。その具体例が詰まっています。

各教科の授業のユニバーサルデザインを取り上げています。授業づくりも提案！



「通常学級での特別支援教育のスタンダード」 東京書籍

日本初！

50名が取り組んでまとめた、通常学級での特別支援教育の実践事例集。

全国どここの学校でも取り入れて使える普遍的な事例140以上満載！

学校・クラス担任教師が自己チェックできるチェックリスト付き。

小中学校の 全教師・教育委員会・行政・心理関係者必携の基本図書。



「イラストでわかる特別支援教育サポート事典」 合同出版

学校生活から放課後、保護者対応までまるごとサポート

「子どもの困った」に対応する99の実例



「合理的配慮の視点でつくる！特別支援教育の授業づくり&指導案作成ガイド」

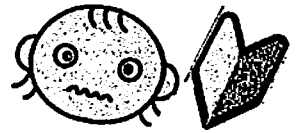
須田 正信 (著), 伊丹 昌一 (著)

研究だより



平成28年9月8日 第3号
富士見市立富士見特別支援学校
研究研修部

4月に赴任したシンプルデザイン初心者の研究部員。
「よし！指導案をかいてみよう」と思い書き始めたら・・・
あれれ、ここには何を書けばよかったかしら???



6. シンプルデザインの視点について

指導案

場の構造化

物などの置く位置が
決まっていますよ。

一目でわかるように
してありますよ。

場を区切って
いますよ。

たしか・・・こんな
こと書くのよね。

時間の構造化

見通しの提示
していますよ。

時間の区切りを
明確にしていますよ。

今何が行われているのか
わかる工夫していますよ。

展開の構造化

「いつも同じ展開にし、見通しが持てるようにする」

学習内容の焦点化

「今日学習することを声に出して確認する」

いつもこのセリフでにげて
きたが・・・
これでいいのたろう
か???

シンプル建設株式会社



- ・すすめてもらった本を読みあさる・・・
- ・昨年の学校研究の資料をしてみる・・・



う～ん・・・
イマイチ自信がない

遠慮せずに聞いて
みよう！
何でも聞ける職場
のチームワークが
自慢です！！

先輩からの
解説は
裏面です。

先登
より

シンプルデザイン4つの視点の確認

学習内容の
焦点化とは... 教員「今日何やったの？」 生徒「今日これやったよ！」
と答えられるようにすること

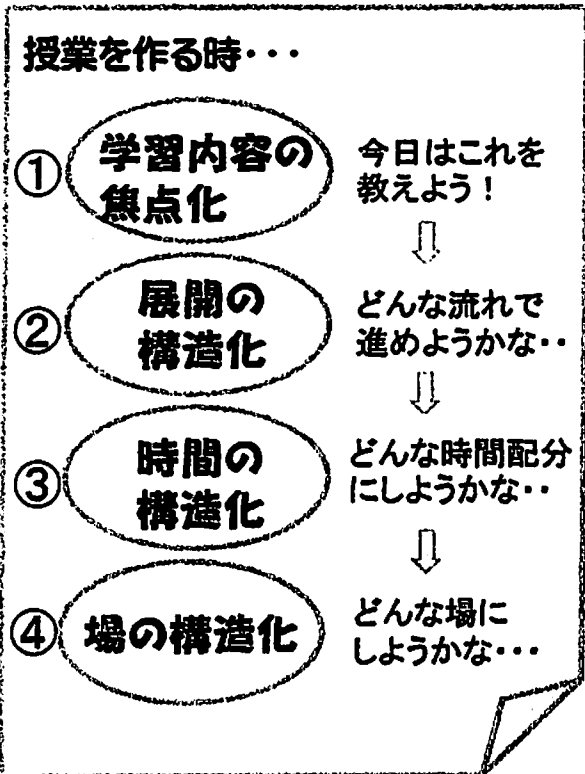


ふむふむ

展開の構造化
とは... 子どもたちが安心して取り組める流れを作ること
たとえば「いつも同じ展開にし、見通しが持てるようにする」とかね。

さらに... ↓

4つの視点内容例



学習内容の焦点化

- ・学習の内容を絞り、授業をシンプルにする
- ・学習のめあてや内容を導入段階で明示
- ・学習のめあてや内容を声に出して確認
(一緒に読む、復唱するなど)
- ・学習のめあてをより具体的に設定する
- ・完成作品等の提示

展開の構造化

- ・授業の基本的な流れ「あいさつ→前時の復習→本時のメインとなる学習活動→振り返り→評価→次時の予告→あいさつ」等の定着、展開のパターン化
- ・学習活動の流れがわかる板書やワークシート
- ・学習内容や活動の山場がわかる表示

時間の構造化

- ・授業(活動)全体の流れの提示
- ・授業開始と終了の合図
- ・活動時間の提示
- ・現在の活動の明確化
(今、何をしているか/何をするとときか)

場の構造化

- ・座席の配置
- ・教材教具の配置(机上の配置を含む)
- ・掲示物等の精選と配置
- ・教員の立ち位置(T1/T2)
- ・児童生徒の動線
- ・グループ活動の配置

山場だけ色を付け提示すると、焦点化・展開・時間それぞれにあてはまるね。

授業の山場に来たとき「今日の大事なことだよ！」と一声かけて意識させるのは学習内容の焦点化だね。

「構造化」...児童生徒が安心して行動できる環境設定ととらえます。

いつも何気なくやっていることを、4つの視点で意識して整理してみるということです。

研究だより



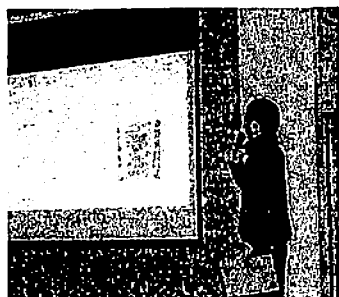
平成28年12月6日 第4号
富士見市立富士見特別支援学校
研究研修部

チーム富士持は学び合える教員集団であいたい！

11月28日(月)全体教科領域部会をおこないました。この会では各教科領域部会の取り組みについて知るとともに今年度の学校研究のまとめをおこなうことを目的とし、限られた時間の中でしたが協議・発表と実りある会となりました。

学校研究もアクティブラーニングで

今回の研修は、講義形式ではなく ①テーマにそった協議 ②発表 ③グループがえで意見交換という形式をとり、主体的・協働的学び、学び合いを大切にしました。



「これいいね！やってみようかな・・・」
各部会からのシンプルデザインを取り入れた授業の実践事例の発表では、すぐに使ってみたくなるような実践がたくさん紹介され、いいね！の声がいくつも聞こえました。

「学校研究のまとめが見えてきた！」

自分たちで協議をし、他の部会での協議内容の発表を聞いていく中で、今回の目的の一つである「学校研究のまとめ」が見えてきました。

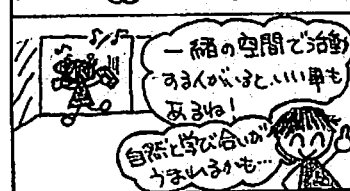
「管理職の先生も、もちろん参加です！」

管理職の先生も部会の中に入って一緒に協議をしました。校長先生も一緒に学び合い。貴重なご意見をいただきました。会の終わり、教頭先生の



シンガレ建設株式会社

今日は内装工事で壁紙はり.....



「授業やりたくなっちゃったなあ～」というつぶやき、聞こえちゃいました！

「学習する組織をつくる」

先生方が個々に学ぶだけでなく、学習するチームをつくる。それを拡大して「学習する組織」にしていく。学校研究をとおしての目的の1つです。

富士特の布を最高のブランドに！

学校研究を進めていく中で、各教科領域部会では小・中・高の縦のつながりができました。そして、学部研究・今回の全体教科領域部会で横のつながりができました。この縦と横の糸を織り合わせ、組織として富士特の布が確実に織られ始めています。どんなことがあっても絶対に破けない布に、そして子どもたちをあたたかく、やさしく包み込む布になる日もそう遠くない気がします・・・

全体教科領域部会 協議シートのまとめ（抜粋）

1 「授業のシンプルデザイン」を用いて授業づくりをおこなうことは有効だと感じましたか。
全教科領域部会で有効であるという回答が得られた。

2 なぜ、「授業のシンプルデザイン」は、授業づくりの基盤として有効であり、必要だと考えますか。

授業づくり

- ・授業づくりがしやすくなった（4つの視点が明確なため、ポイントがわかりやすい）
- ・4つの柱から見ることで、漠然としていたものが整理された。
- ・経験の浅い教員でもわかりやすい授業づくりに近づくことができた。
- ・教員も授業を改めて、具体的に考えるようになった。
- ・特別支援学校だけでなく、通常学級でもすべての授業の基盤だから。

指導面から

- ・環境を整えることで、児童だけでなく教員もスムーズに動けるようになった。
- ・教員が入れ替わっても本校の授業スタイルとして授業をすすめやすい。
- ・生徒、教員ともにやるのがわかりやすい。
- ・誰がMTでも授業が成り立つ。枠があることで、教える教員や学部が変わっても、混乱が少なくなった。

児童生徒の様子から

- ・新しい単元に入るとき、授業の流れを予測しやすい。授業に入りやすい。
- ・児童生徒が主体的に取り組むことができたから。取り組みやすいから。
- ・わかりやすいことが生徒の意欲を引き出す。
- ・児童生徒が安心して授業に参加することができた。

3 「参加しやすい・参加できる・わかりやすい授業」をつくるためには「授業のシンプルデザイン」を取りいれ基盤を整えた上に、どのようなことが必要になってくると考えますか。

- ・実態把握をふまえての個別の指導支援が必要。（細分化）。実態、発達段階に応じた指示・支援方法
- ・指示の伝わり方。指示の構造化。適切なことばかけ。声の大きさ。
- ・子どもの興味・関心を引き出す授業。楽しさ、ユーモア。
- ・成果が目に見える授業 ・自信のつく課題 ・適切な課題の設定
- ・教員の数、指導体制。教員のチームワーク。S Tとの連携
- ・教科の特性を活かした工夫。

4 教科領域部会で検証・協議をすすめてどのようなことを感じましたか。

- ・他学部の取り組みをきいたりする機会がなかなかないのでそのような時間が取れてよかった。
- ・自分とは異なった視点での授業づくりを知ることができた。授業の幅が広がった。
- ・さまざまな教員との意見交換できる重要な場となった。
- ・個人で考えるより部会で協議することで、シンプルデザインを明確に理解できた。
- ・学部を越えて共通の視点で授業を見直すことができ、新しいネタを仕入れることができた。
- ・お互いの授業を見ることで、他学部の児童生徒の様子を知ることができ、成長を見ることができた。
- ・喜びを共有することで、教員同士の仲も深まった。
- ・授業づくりを見直すいい機会になった。
- ・学部を越えて情報交換ができ、小から高への系統性を考えることにつながった。